

経営理念		【保育目標】みかんの里の げんきっ子 【経営目標】『幼稚園における生活の全体から、豊かな体験を通して生きる力の基礎が身につく幼稚園』をめざす 《子ども像》○のびのびと明るく元気な子ども ○自分のことを自分でしようとする子ども ○友達と心を通わせ思いやりのある子ども ○自分なりに表現する子ども ○最後までやり通す子ども 《幼稚園像》○子どもの笑顔が輝く幼稚園 ○基本的な生活習慣を身につけ健康な子どもが育つ幼稚園 ○友達とつながり自主性や社会性を身につける幼稚園 ○身近な自然に親しみ豊かな心情や創造力を育む幼稚園 ○保護者や地域から信頼される幼稚園 《教師像》○子どもに寄り添い深い信頼感や安心感を育む教師 ○楽しい教育活動を工夫する教師 ○環境や人とのかわかりが広がるよう工夫する教師 ○互いに協力してチャレンジする教師 ○人間性豊かで指導力の向上に努める教師					
中期経営目標		自己評価		幼稚園関係者評価		改善策等	
短期経営目標		達成状況		評価	考察	評価	
保育・教育活動の充実	一人一人の心が満たされ、意欲的に遊びや生活をするための保育者の援助と環境構成を行う。	○豊かな遊び環境を保証していくために、全クラス担任で遊びのテーマを決め、その遊びに必要な教材研修を行った。 (色水遊び・泡を使った遊び・シャボン玉遊び・スライム遊び) ○皆で協議し合うことで、同じ遊びであっても発達段階によって扱いやすい用具の種類や用具の数の確保には違いがあることや遊びを深めていく為にも年齢に応じた場の整え方を変化させていくことが大切であるということを確認し合う貴重な時間にもなった。 ○取組結果は、年間計画を立てていたが、行事が多くなる2学期以降時間の確保が難しく4回の実施であった。 ○取組の成果は全担任が「子どもの興味・関心や発達に応じた遊具用具を自分なりに工夫して準備するようになった。」と評価した。「もとの関わりを深めるような教材の研究をするようになった」という段階まで取組めたと評価した職員も4割いた。		B	○教材研修の機会をもっと持たかったと思う意欲を評価する。教材研修をやってみてどうだったかの共有もしてはどうか。 ○教材研修のテーマに偏りがある。水に関する研修だけでなく、季節感をもち、夏、冬と2つほど計画する等してはどうか。	B	○今後も職員が自らのスキル向上に向けて学び続けたいと思う研修を探索していく。また、年度当初に年間研修計画を作成し、研修の為の環境や研修の工夫を行い、研修の充実を図る。
	言葉に対する感覚や創造性の豊かさにつながる言語環境を目指す。	○4つの取組指標、①状況に応じた適切な言葉を使うことができるように、担任がモデルとなり豊かな言葉を意識して使う。②生活の中で心動かされる体験を通して自分の気持ちを表現する楽しさを味わえるような環境を整える。③絵本や歌など子どもが興味・関心をもって言葉に親しむことができる環境を整える。④各保育室の絵本棚に置く絵本等を子どもの興味・関心や季節に応じて変化させていく。を意識して取組んだ。結果としては2項目取組むことができた職員が4割、3項目取組むことができた職員が6割であった。 ○取組の成果は、各クラス共、50%以上の子どもが「発達段階に応じて日常生活に必要な言葉がわかり、状況に応じた適切な言葉を使うようになった」と評価することができた。 ○適切な言葉の使い方には、個々の家庭環境や育成歴も影響していることから今後も丁寧な関わりが必要である。 ○職員の場に応じた適切な言葉の使い方は、意識の持ちように個人差があった。		B	○子どもには親の言葉が一番に入ってくる。お便り等を使い、園の取組みや正しい言葉の使い方について家庭に平等に知らせ、家庭内の会話も見直してもらう機会を提供してはどうか。 ○永遠に続く難しいテーマであるが言葉は大切であるゆえ、このテーマを掲げ取組んでいることに対し評価する。かつ希望を持つことができる。	B	○職員や友達と心通わせる体験を積み重ねていくことができる環境を整え、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養っていく。その取組を家庭に積極的に発信していく。 ○状況に応じた適切な言葉を使うことができるようになる上でも絵本等の選書力を研修や自己研鑽によって高めていく。
	発達に即した保育・教育活動を展開する。	○クラス担任は毎週週始めに管理職に週案を提出することができた。 ○園長・教頭も週案確認時には必ずコメントをつけ、担任が日頃の保育を相談しやすいように努めた。 ○ねらいを意識して環境を準備してきたことで成果としては、クラスの3分の2の子どもが「教師の意図した遊びに自ら関わり楽しんだ」と評価することができた。クラスによっては「遊びの工夫や友達と協力するなど、子どもの主体的な姿が見られることが増えた」と評価したクラスもあった。		B	○実践につながるいきた週案になっている。 ○取組指標の基準よりできていることが多い。 ○目標に向けて取組む職員の意欲が伸びていることが評価できる。	A	○次年度は常に指導計画の改善を図っていくことができるよう「ねらいに基づいて反省評価を行い、教育内容の改善・工夫を行っていく」という段階をめざし取組む。
職員の育成・資質向上や運営	職員が互いの良さを認め合い、協働して保育を遂行する職場環境を作る。	○目標達成向け、学年や異年齢間の話し合いを年間通じて週3回もつことができた。職員室では職員が保育を語り合うことが楽しく感じられるように、園長・教頭も率先して話しやすい雰囲気づくりを心がけ、気軽に子どもの様子や自身の悩みを話すことができるように務めた。3歳児は1クラスの為、行事が近づくとか他学年との話し合いの機会を作ることが難しい時期もあったが、他学年の担任から気遣う姿も見られた。 ○取組の成果としては「先輩や同僚からのアドバイスを真摯に受け止め、前向きに実践することができるようになった」や「自分から積極的に他の職員との協力・共同はできるようになった」という段階まで関係性を築くことができた。		B	○職員の輪が子どもたちの輪につながっている。コミュニケーションを大事にして取組んでいることを評価する。 ○担任が語り合うことが楽しく感じられていることが成果である。	A	○職場風土として、職員間で協力し合う雰囲気・資質向上を目指す雰囲気・対話しやすい雰囲気を目指し、研修の場や時間の工夫に努める。
	子どもの姿を見取り、確かな成長を促す指導の工夫を図る。	○コンサルテーション研修を受け、年間9回(AM参観PM協議)25名を対象に実施した。エッセンスQシートを用いて12の視点から、子どもの姿を捉え、発達や特性の理解を深めることができた。 ○同時にトトレ6回コースを6名が受講した。コンサルとトトレ研修にはクラス担任だけでなく、会計年度任用職員(フルタイム1名・パート3名)も共に学び合い、日頃から皆でコンサルやトトレの学びや支援方法について語り合い、子どもたち一人一人が過ごしやすい環境の中で生活できるように努めた。 ○取組の成果は「一人一人の特性や発達を理解しその援助を工夫するようになった」と評価した職員は4割。「個と集団の育ちを意識して一人一人の特性や発達を捉え必要な援助を行うようになった」と評価した職員は6割であった。 ○保護者による学校評価アンケート「お子さんは幼稚園で自分らしさを発揮して過ごせていると思いますか」では「そう思う」60%「ややそう思う」37%の評価であった。		B	○コンサルテーション研修は来年も継続されるのであれば、エッセンスQの視点を意識し、子どもに応じた支援の保証をしていって欲しい。 ○保護者アンケートからも、評価を受けることができている。	B	○次年度も研修に参加し、子どもの発達の特性を探り、園生活が過ごしやすい環境となるよう早期支援や環境調整を行っていく。組織として支援体制を整え職員の支援力向上を目指す。
地域に開かれた園づくり	幼稚園教育の意図を子どもに分かりやすく伝える。	○遊び環境の中で展開される教育・保育の取組を①クラスだより ②げんきっこだより(園だより) ③ドキュメントで保護者に伝えることを意識し取組んだ。 ○クラスだよりは月2、3枚作成し積極的に写真を用いて遊びの中で育つ力を伝えていった。げんきっこだより(園長だより)はすぐーるにて30回配信、ドキュメントは、園の取組に関心を寄せてもらえるように、その日の行事や出来事をリアルタイムで届けることを目指し、年間65回の掲示を行った。 ○取組の成果は、保護者による学校評価アンケートでは「園が保育所や小学校と行っている子ども同士の交流活動の内容はお便りやドキュメントから伝わりますか」では「そう思う」86%「ややそう思う」14% クラスだよりから日頃のクラスの様子や成長の姿を感じとることはできていますか。「そう思う」79%「ややそう思う」21% げんきっこだより等で教育内容や子どもたちの様子はよくわかりますか。「そう思う」74%「ややそう思う」25% 掲示板は園の様々な活動や子どもの様子を知るツールとなっていますか。「そう思う」75%「ややそう思う」23% の評価であった。		A	○保護者の評価が高く、園からの発信が伝わっている。	A	○学校評価アンケートの回答を受け、次年度園に期待する項目として数値の高かった項目を経営計画の作成において検討項目として反映させ、保護者に幼稚園教育の意図を伝えていく。
	互恵性のある保育小連携を行い、その過程や成果を保護者に配信する。	○取組の成果として①連携担当者を中心に交流活動の事前事後の会を計画し、互いに指導計画を共有したうえで実践し、実践後は反省評価を行うことができた。 ②4歳児と小学校4年生との交流活動も数年ぶりに復活した。③7月31日に3名の先生方に保育者体験と事例研修を実施することができた。 ○保護者による学校評価アンケートでは「園が保育所や小学校と行っている子ども同士の交流活動の内容はお便りやドキュメントから伝わりますか」では「そう思う」67%「ややそう思う」30%の評価であった。 ○幼稚園教育の興味・関心に基づいた多様な体験が小学校の各教科の中でさらに伸びていくということや、生活の基盤にもなっていることを知ってもらえるよう、配信の仕方を工夫していくことが今後の課題である。		B	○幼稚園の取組の成果が小学校につながっている。 ○連携に関しては、小学校にも課題がある。次年度に向けて、幼小で取組み始めている計画もあるのであれば、反省を活かして取組んで欲しい。	B	○幼稚園での多様な体験が、生きる力の基盤となる学びの芽を育てていることや、小学校と互いの教育・保育を理解しようと取組んでること等を、保護者に分かりやすく伝えることができるよう配信の仕方を工夫する。

A:十分満足(90%以上) B:おおむね満足(70～90%) C:もう少し努力すべき(50～70%以上) D:大いに努力が必要(50%以下)